

会議録

会議名	令和5年度(2023年度) 第1回 生涯学習審議会	
日時	令和5年(2023年) 6月23日(金) 午後7時00分～	
場所	八王子市生涯学習センター10階第2学習室及びオンライン会議	
出席者氏名	委員	<会場参加>石川智子委員、中嶋昭江委員、上田幸夫委員、三浦眞一委員、炭谷晃男委員、長谷川幸代委員、金山滋美委員 <オンライン参加>小林万里子委員、阿部寧子委員、大塚英生委員、丹間康仁委員、野口武悟委員、山崎領太郎委員
	事務局	鶴田徳昭生涯学習政策課長、松井洋一学習支援課長、倉田直子放課後児童支援課長、一杉昇子図書館課長、堀内栄史図書館企画調整担当課長、鈴木秀吾図書館分館担当課長、江藤功図書館課主査、村石英里図書館主査、佐藤綾図書館課主査、田島裕子生涯学習政策課課長補佐、堀江誠俊生涯学習政策課主任、香月優花生涯学習政策課主任、林愛子生涯学習政策課主任
欠席者氏名	市川利幸委員	
議題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 審議① 令和4年度(2022年度)生涯学習関連事業評価について (2) 報告事項① 八王子市立中学校部活動検討会議の開催等について (3) 報告事項② 令和5年度都市社連協 第1回役員会・第1回拡大役員会の報告について (4) 報告事項③ 第4次読書のまち八王子推進計画における事業の実施状況及び今後の実施予定について (5) 報告事項④ 八王子駅南口集いの拠点整備・運営事業の契約締結に伴う施設の概要について (6) 報告事項⑤ 令和5年度(2023年度)「本のPOPコンテスト」の実施について (7) 報告事項⑥ 川口図書館の大規模修繕について (8) 報告事項⑦ 放課後子ども教室をフィールドにした研究成果集(小冊子)について (9) その他 	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	

<p>配 付 資 料 名</p>	<p>■審議資料① 令和4年度（2022年度）生涯学習関連事業評価について 審議資料①-2生涯学習関連事業統計グラフ 審議資料①-3令和4年度（2022年度）生涯学習関連事業評価（所管評価） 【基本施策別】 審議資料①-4（参考）「八王子未来デザイン2040」各論体系図</p> <p>■報告資料① 八王子市立中学校部活動検討会議開催要綱 報告資料①-2第1回八王子市立中学校部活動検討会資料 報告資料② 令和5年度都市社連協 第1回役員会・第1回拡大役員会の報告について 報告資料③ 第4次読書のまち八王子推進計画における事業の実施状況及び今後の実施予定について 報告資料③-2第4次読書のまち八王子推進計画に基づく事業の実施状況及び今後の実施予定一覧 報告資料④ 「八王子駅南口集いの拠点」整備・運営事業 ミライテラスプロジェクト概要説明書 報告資料⑤ 第3回 本のPOPコンテストの実施について 報告資料⑥ 川口図書館の大規模修繕について</p> <p>■参考資料① 教育委員会定例会における関連事項について</p>
<p>会 議 の 内 容</p>	<p>（三浦会長）それでは、定刻でございますので、只今から令和5年度第1回生涯学習審議会を開催いたします。本日の出席者の確認をさせていただきます。会場で出席いただいている委員が8名、オンラインで参加されている委員が6名、計14名の出席により過半数を超えておりますので本日の審議会は有効に成立することをご報告いたします。会議及び会議録の公開についてですが、「八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針」に基づき原則公開となっておりますので、本日の会議につきましても公開とさせていただきます。傍聴の方がいらっしゃいましたら入室を許可しますが、本日、傍聴人の方はいらっしゃいません。</p> <p>それでは次第に従いまして、会議に入らせていただきます。まず（1）審議事項①「令和4年度生涯学習関連事業評価について」、事務局よりご説明をお願いいたします。</p> <p>（田島課長補佐）それでは、審議事項①「令和4年度 生涯学習関連事業評価の実施について」ご説明します。本評価は生涯学習プランに示す施策の展開が着実に行われているかを年度ごとに点検するものであり、毎年各所管で実施した生涯学習に関する事業について、実施所管の自己評価をまとめたものです。昨年同様、今回も委員の皆様の意見を集約し、審議会の評価とさせていただきます。審議資料は①-1から①-4です。資料①-4は、今年度改訂された本市の基本計画「八王子未来デザイン2040」の施策体系図です。資料</p>

①-1の3ページ上段、所管評価の概要をご覧ください。令和4年度の評価対象事業は全127件となっております。評価についてご説明いたします。評価は各事業の内容に合わせ、参加者数や利用者数など数量的なものや、参加者の満足度などを元に各所管が決めております。「S」（目標以上の成果があったもの）が1件、「放課後子ども教室」事業でございます。新型コロナウイルス感染症の影響で活動を屋外に限定したにも関わらず、延べ参加者数が目標値を大幅に超え、前年度より7万人増加した結果となっております。「A」が最多の76件・60%、「B」が36件・28%、「C」が2件・2%、「評価なし」は10件となっております。なお、127件のうち2件につきましては現在集計中となっており、次回ご報告させていただきます。4ページ以降は各施策の取組み概要となっております。後ほどご審議をお願いします。続いて資料①-2をご覧ください。1～4ページは事業を種類・分野などの性質別にグラフにしたもので、全体と基本施策の内訳となっております。5ページは新型コロナウイルス感染症の影響を表したものです。ここで5ページの訂正をさせていただきます。「評価なし」10件の内訳ですが、印刷では「0, 0, 7, 3,」となっておりますが正しくは「0, 0, 6, 4,」でございます。申し訳ございませんが、訂正をお願いいたします。次に資料①-3をご覧ください。こちらはすべての事業内容とその評価の一覧です。昨年度から表を変更した箇所がございます。「生涯学習プラン基本施策・施策の展開」と「事業名」の間に「未来デザイン2040都市像・基本施策」の欄を設けました。「八王子未来デザイン」は”八王子市がどのような姿を目指して何を行っていくのか”をまとめた本市の最上位計画です。この中で基本構想の6つの都市像実現のため、37の施策を定め体系化しています。令和7年に改定を迎える生涯学習プランは、この最上位計画の分野別計画として策定していく必要があるため、今回の調査からこの項目を導入しました。「未来デザイン」の37施策についての資料は①-4の各論体系図のみ添付いたしましたが、市のHPに計画全文及び概要版が掲載されていますので、よろしければご確認ください。駆け足でご説明しましたが、事業全体の概ね9割が計画や目標通りに事業を達成できております。また、コロナ禍の影響として令和3年度は20事業15%が中止や延期となりましたが、令和4年度は6事業約5%にとどまっております。これはコロナ禍の収束傾向に加え、各所管が感染予防策を行いながら事業を継続したり、オンライン形式を導入するなどの工夫をしたことによるものです。この後、各施策のへご意見をいただきながら、次回の審議会評価をまとめたいと思っております。本日は報告案件も多数あるため、審議時間に限りがありますが、会議後のご意見・ご質問用紙のご提出も含め、意見を賜りたいと思います。評価の基礎となるたくさんのご意見をいただきたいので、委員の皆様のおひとりにつき少なくとも一つはご意見をいただくと大変ありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

（三浦会長）ありがとうございます。只今事務局からからご説明をいただき

ました。基本施策は大きく3つに分かれておりますが、まず「基本施策1 誰もが学べる環境づくり」につきまして、皆様からご質問・ご意見がございましたら挙手をお願いいたします。

(鶴田課長) 4ページの取り組み概要を見ていただきますと、特に今回頑張った事業について書き出したものになります。まず子どもの頃から始める生涯の学び。出張体験講座というのは、放課後子ども教室の中のプログラムということで、地域の方々から様々なコンテンツを出していただいて、講座の種類や回数ともに令和3年度の実績を大きく上回って子どもたちに、ただの校庭の自由遊びだけではなくて、さまざまな体験を提供することができたというものになります。

(山崎委員) はちりカのところが、社会人なので少し気になるところなのですが、資料1-③の34番でこれに該当しているかと思うのですが、前回リリースしてから1100件ぐらいのダウンロードがあったという報告があり、今年は300件ほどのダウンロードがあったのでしょうか。

(松井課長) 学習支援課長の松井です。今年は新規のダウンロード数は300以上ございました。

(山崎委員) 指標評価の欄が「普及・啓発等」となっていますが、300ダウンロードがあったから多少普及ができたという考え方なのでしょうか。

(松井課長) そうです。

(山崎委員) 例えば、東京都と連携してリカレントナビと紐づけることで、アプリの普及の取り組みを行ったと書いてあって、だとしたら、前年度並みほどはいかないまでも、もっとダウンロード数があって、利用している人がいてもいいのかなと思いました。

(松井課長) 基本的に300の数をどう捉えるかということもあるかと思いますが、令和4年度につきましては今おっしゃられたとおり、東京リカレントナビと新たに連携して更なる情報の一元化を進めまして、そういった中で、今300という数字で、累計で言うと概ね1600ぐらいのダウンロード数になって、あまり派手な数字ではないですが、順調に少しずつ伸びているという所管の認識でございます。

(山崎委員) はい、わかりました。ありがとうございます。

(三浦会長) これがすべてということではなくて、今後とも伸ばしていくと

いうふうに理解をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。他にご意見はございますでしょうか。

(上田委員) 14 番に青少年海外交流・都市間交流の実施とありますが、私が若いころ苫小牧市に青年の方で行ったのですが、八王子と苫小牧の交換を毎年やっておりました。最近その話もう廃れてなくなったなと思いますが、今小学生が白糠の方でやっているのでしょうか。この交換事業はどのような内容だったのか、その辺をお伺いしたいなと思います。

(三浦会長) 直近では何年ぐらい前になるのでしょうか。コロナでできなかったというのもあるだろうと思います。

(鶴田課長) 白糠と八王子の子どもの交流について、コロナ以前は1年ごとに八王子市からの派遣と白糠町からの受け入れを繰り返していました。白糠に八王子の子どもが行った時には、廃校を活用した宿泊施設等で、八王子と白糠の子どもと一緒に寝食を共にしながら、ボーイスカウトのベテランの指導員の指導のもと、キャンプファイヤーを行ったり、自然体験を中心に湿地体験を行ったり、レクリエーションなどを通じて、親睦を深めるといった取り組みをしておりました。また、八王子に来られた時には、市内で車人形の体験をした年もありますし、大学のキャンパスを借りて調理講習を一緒にやった年もあります。高尾山と一緒に登るのも例年行われておりました。また、今年度はコロナもだいが収束としたということで、八王子の子どもが、北海道に行くという年で、この事業も回復する予定であります。

(小林委員) 最初にお話のありました出張体験講座ですが、これは私たちのコーディネーター会で受託している事業でもありますけれども、確かに講座の数が増えてありがたいことですが、一つ課題があるとすれば、出張体験講座の講師お願いしますと手を挙げてくださる小学校がだいたい毎年決まっており、手をいつも上げてくださっているところと、全然挙げてくださらないところで分かれているような気がします。逆に言うと、毎年手を上げてくださっている学校は、一回使ってみると「すごくいい」と実感してくださっていると思いますので、手を上げてくださっていない学校に、もう少し PR をしたいなと考えています。もっと数が増え、良さを実感していただきたいと思います。

(倉田課長) 放課後児童支援課長です。いつも出張体験講座の実施についてご協力いただきまして、ありがとうございます。おっしゃるように決まった学校が手を挙げる人が多いという傾向は多々ございますが、実施した学校に聞いてみると「とてもよかった」ということで大変好評をいただいております。今後ですが、まだ手を挙げたことがない学校にぜひ体験していただき

たいと考えておりますので、放課後子ども教室の運営委員会の際などに情報交換会を行っているのですが、そのときに横展開できるように、この事業の楽しさなどを周知徹底して参りたいと思っております。以上です。

(小林委員) ありがとうございます。

(三浦会長) 確かにまだ実施していない学校まで広げるというのも大切な要件の一つだと思いますので、双方でご協力をお願いいたします。

(長谷川委員) 図書館に関連してですが、関連事業評価の表を見るとかなり図書館の項目があって、子ども向けのものから高齢者向けのものまでいろいろあります。例えば A 評価の 25、26、28、44 あたりで幅広い年齢層に向けて、いろいろなことやっていますので、評価に取り上げていいのではないかと思います。あと 25 番ですが、目標値が 892 人に対して実績が 1,864 は大幅に上回っている様子ですが、これだと A なのでしょうか。S でもいいような気もするのですが。

(一杉課長) コロナがだいぶ落ち着いたこともあって、職場体験の参加者が本当に増えています。いろいろなカリキュラムの内容を工夫して実施しました。

(鶴田課長) 図書館課と生涯学習政策課事務局の方で調整させていただければと思います。

(一杉課長) コロナ禍以前の体験の数なども考慮して決めていきたいと思えます。

(鶴田課長) 自己評価に対して審議会を通じて修正を加えていただくのもこの審議の意義になります。ありがとうございます。

(金山委員) 今の件ですけども、数で言うと明らかに増えていますが、例えば来た子どもたちに結果の感想とかアンケートは取っていらっしゃいますか。子どもたちの満足度というのも結果を図るための指標として大きいと思います。それがかなり良いのであれば、もちろん S だと思いますが、子どもたちがまだ物足りないのであれば、S はまだ早いのかなと思います。

(一杉課長) 皆さんには終わった後に感想等を書いていただいておりますが、楽しかったとか、普段見られない書庫を見られたり、カウンターで市民の人と接してためになったという意見を多くいただいております。具体的な数値でのアンケートはとっていないので、書いていただいた内容になってし

まいますが、生徒たちもリアル体験をしてためになっているというところは伺えます。

(金山委員)であれば、次年度から各図書館でアンケートを統一した形にすればわかりやすいと思います。そうすれば図書館もフィードバックをもらうことができ、職場体験もより活かされたものになるのではないかと思います。そのあたりをもう少し工夫していただければと思います。

(三浦会長)基本施策1に関して、他にご意見ございますか。お願いします。

(上田委員)去年初めてこの会に出席した際に申し上げたのが、18番、19番の郷土愛とか郷土の歴史についてもっとPRした方がいいという話をしたと思います。私は町会自治会の関係の仕事を長くやっていましたが、地域に関心のあるものというのは非常にどの年寄りも関心があるのですが、今のこの成果を見ると、特に18番は196名の参加者があったということで、すごい成果があったのだなと思いました。今までと違う方法でPRしたり、応募の方法を変えたりして、成果を上げるために努力されたのではないかとと思うのですが、そのような話があればお聞かせ願います。手法の連携ですとか、あるいは、こういうことを取り入れたということがありますでしょうか。

(鶴田課長)今挙げていただいた事業につきまして、この場には文化財課の担当なので、数字の上昇についてどのような取り組みの成果だったのかにつきましては、シートに書いていただいた質問と同じような扱いで、後日、委員の方にご報告するという形にさせていただきます。

(三浦会長)ありがとうございます。なかなか全部一度にお答えするのは難しいと思いますので、少し時間をいただければと思います。ほかにご質問はございますでしょうか。

(清水委員)「全ての子どもが健やかに育つ地域づくり」ということなのですが、3番の「赤ちゃんふれあい事業」という学校に赤ちゃんが来たりとか、妊婦ジャケットを着たりとかするような体験ですが、今この時代の流れとしてLGBTQの理解を深めるとか、性教育に関してはできるだけ小さい時からスタートした方がいいとか、そういうことが今注目され始めてきている時代です。そういう点では男女共同参画法が成立したときも性教育をもっとしっかり学校でやらなければいけないという話をしているのですが、学校は歯止め規制があってなかなかできません。学校でないところでたくさんの子どもたちがLGBTQの理解だとか、男女の体の性の違いだとか、自分の体を守るとか、きちんと正しい性を学べる場として、3番の中にこのような取り組みは入っているのでしょうか。そういうところがもう少し充実すると、市民の

理解にとっていい活動になるのではないかと思います。

(中嶋委員) 中学校では講演や妊婦体験等を通じて、子ども達の体の性の違いについての教育を行っています。

(清水委員) 中学生には昔からやっていますが、もっと小さい段階からやるべきであると思っていて、今幼稚園で実施していますけれども、小学校でも低学年から幼稚園からでもスタートしていけるような、親子で一緒に学べるような企画を取れたらいいのではないかと考えています。

(三浦会長) ご意見として賜っておきます。ありがとうございます。

(丹間委員) 生涯学習プランが令和2年度から始まって、3年目が令和4年度でしたが、その間ずっと新型コロナウイルス感染症の影響が続き、しかし、それに対する様々な工夫もできるようになってきて、いよいよ出口に向けてアクセルを踏み込んでいくというような、これからという時期だと思えます。今回、この審議資料①-1の4ページ、令和4年度取組概要を読ませていただくと、最初のところに「令和4年度は実施方法を工夫することによって感染防止対策を施しながら前年度以上に多くの事業を中止することなく実施することができた」とあります。そのこと自体が非常に高く評価できると思います。何よりもこの基本施策は「誰もが学べる環境づくり」ですので、感染症に対して不安のある方も、あるいは with コロナを全力で進めていきたい方も、さまざまな方が社会にはいるということが、このコロナ禍で私たちが学んだことだと思えます。さまざまな状況にある方やそれぞれの価値観に配慮していくことが、誰もが学べる生涯学習のために本当に大事であるということが、この3年間で私たちが得た気づきだと思っています。ですので、誰もが学べるために実施方法を工夫したということで、高く評価できる部分ではないかと思っています。この評価を令和5年度の取組に繋げてアクセルを踏み込んでいくわけですけど、それはベタ踏みでもいけませんし、さまざまな工夫を続けながら、安全装置をつけながらアクセルを踏み込んでいくという意味でも、非常に大事な評価の部分になると思った次第です。全体的なことになりましたが以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。ご意見賜りました。基本施策1につきましては、このあたりで締めさせていただいて、新たにご意見がありましたら、事務局から送らせていただく用紙に記入いただいて、メール等でご連絡いただければと思います。時間の都合もでございますので、進めさせていただきます。続きまして「基本施策2 学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～」につきまして、皆さんからご質問をお願いします。山崎委員、どうぞお願いいたします。

(山崎委員) 基本施策2は、研修会や養成講座が割と多くありますが、指標として参加者数等で計っていますね。例えば69番の「日本語ボランティア養成講座」について、目標の45人に対して55人来たのでA評価なのでしょうが、ここで学んだ人が実際に日本語ボランティアの現場でどれほど講座の内容を役立てているかというところまでわかるとすごくいいなと思いました。参加者55人で、その後、一人も学んだことを活かしていなかったら残念と思うので、その後どうやって活用しているかまで指標として測れるとすごく意味があるかなと思いました。

(三浦会長) ありがとうございます。ご意見賜りましたので事務局で書き留めをお願いいたします。

(鶴田課長) 先ほどの上田委員からのご指摘の事業と同様に、こちらもこの場にはない多文化共生推進課の事業になりますので、このボランティアの養成を受けた後の接続などにつきましては、お調べして回答させていただきます。

(山崎委員) それは例えとして出したもので、他にも養成講座とか講習会とかが多くあります。今後評価する指標として、人数とかアンケートだけではなく、例えば、はちりカのアプリで後から「今どうなっていますか」と尋ねるとか、スマホを使ってラインでやるなど、後追いのようなことができないのかなと思っています。

(三浦会長) 本日見せていただいた指標だけではなく、後追いでその後どういふかたちで結果が出ているのかを指標として取り入れるべきだろうということだと思いますので、各部署単位で実施している事業になりますので、まず第一段階として統一見解を作っていただかないと、同じ形で答えが出てこないということになってしまいますので、それも併せて事務局の方でご検討いただくようにということで、ご了解いただければと思います。ありがとうございます。他にご意見やご質問ございますでしょうか。

(清水委員) 53番の学童保育についてですが、評価がAになっていて、待機児童がゼロになったという事だと思いますが、私がここに勤めていた頃は4月1日から1年生の教室よりもずっとたくさんの子どもが入っていて、とても驚きました。1年生は1クラス35人ですが、その教室の中に60とか70人入れたりしています。なんの指導もまだ受けてない子どもを引き受ける学童の先生方のご苦勞をいつも目の当たりにしています。最近は学童の待機児童のその先の環境、一人当たりの定員というところで、何か取り組みがあるのかなと思います。私は学校の施設をどんどん使うべきだと思っています、も

っと広いところをいっぱい使ってもらいたいと考えています。でもこれがAになっているのは、待機児童がゼロになったというところの評価になりますか。

(倉田課長) 学童保育についてご意見ありがとうございます。八王子市としては、まずは待機児童ゼロを目指すというところで、今まで取り組んでまいりました。おっしゃるように保育環境の向上というのはとても大切だと考えておりますので、今後は一人当たりの面積についても考慮していかなければならないことだと思っております。今、実際に一番狭いところで、一人当たり1.1平米で、これから新規施設を整備するようなどころについては、国の基準の1.65平米というのがございますので、一人当たり1.65平米で考えております。ただ、雨の日などは1.1平米の中に子どもたちがギュッと詰められるようなことは、保育の側からしても厳しいですし、子どもの環境として良いのかというところはとても気になります。学校内施設については、放課後の時間だけ学校をお借りするようなことが最近できるようになりましたので、遊び場所として放課後だけお教室を何部屋かお借りするようなことを考えながら進めているところです。今後も保育環境の向上に向けて取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

(三浦会長) 是非前向きにいろいろやっていただければと思いますので、よろしく願います。他にご意見ございますでしょうか。お願いいたします。

(炭谷委員) 「学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～」ということですが、これから申し上げることはこの分野だけではなくて、評価の在り方についてです。何人かの方が指摘されましたが、昔から主張していたのは客観的な数字ではなくて、満足度などの質的指標も入れなければいけないと言われていました。さらに、行政が実施する生涯学習講座は参加者を集めるのに一生懸命で、たくさん集まってくれたら嬉しいで終わってはいけません。その後、それがどのように学習に繋がっていくのか、その後アフターグループができたとか、もう一度そういった集まりをやろうとか、活動の実践につなげていくということが行政の支援するところであって、集めて講座をやるのが行政の生涯学習政策ではないと思います。山崎委員も言われていた「終わった後、どうなっているのか」に、どのような指標を集めていくのかというのは、大きな研究課題ではないのかなと思います。

(三浦会長) 大変重要なポイントをだろーと思えます。ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

(金山委員) 2点あります。1点目は、学習制度を循環させるということはとても大事です。例として、私は昨年度社会教育士をとりましたが、そこで

自然にライングループができて、このライングループの中で情報交換ができる。全国の人が入っているので、「こういう政策をしたいのですが皆さんどう思いますか」と言われたり、「こういう関係の本を出します」という情報、「ここでこういう研究会がありますよ」という情報共有があったりして、そこで自らレベルアップができるということになるので、それも「つながる」という一つの意味だと思います。もちろん自主的なものですが、そういう仕掛けなどが考えられれば、そこで例えば一年後、「今どうしてますか。」なども聞くことができるのかなとは思いました。もう1点は、学校図書館のボランティア研修会を評価されていますが、この母数になる学校図書館ボランティアは何名いらっしゃるのでしょうか。

(一杉課長) 学校司書関係のこちらの事業が教育指導課の管轄なもので、正しい数字を今申し上げることができかねます。

(金山委員) 数的には寂しいですが、中身の評価がとても良いということだと思います。であるとしたら、その実施の形態が問題で、教育センターで実施したら本当に行きにくいです。何も知らない方にとって教育センターはとても遠いところなので、もう少し地元に近いところで、高いレベルのものを何回もやっていただくと、より出席者が増えるのではないかと思います。それともボランティアの方のレベルが上がってきたならば、もっと難しいワンランク上のことを学ぶ機会が必要なのかなと思います。それと学校司書が配置されて、とても学校図書館がよくなりましたので、学校司書とどう連携していくかということもこれから必要になってくるので、一緒に何かをする機会というのもあるといいのかなと思います。

(三浦会長) 専門職とボランティアである程度線引きがされているのだと思いますが、多少被ってくるところがあると思います。その辺をどういう形でタイアップしていただくのかということが、今後の一つの課題になってくると思いますので、そのあたりも一つご検討いただければと思います。お願いいたします。

(大塚委員) 先ほどの53番の学童保育のところが気になっています。待機児童ゼロは大変な成果だと思うのですが、その後の目標のところ「継続」というところが気になっていて、今少子化が進んでいて、いろいろところで保育園のゼロ歳児枠の定員が割れています。先ほども環境とか内容というところのお話が出たと思いますが、指定管理で今回株式が結構入ってきているということで、移行の方はスムーズだったということは聞いていますが、学校の先生たちが異動で変わるということ、管理者全体がガラッと変わってしまうことについて、それでいいのかなと思うところがあります。是非、待機児童ゼロを継続するというよりは質的な部分も考えていただけると、今

後の子どもたちの放課後が充実するのではないかなと思いました。

(三浦会長) ありがとうございます。放課後、先生方が直接には関わらないということになりますから、今後どう力添えをいただいて、無理がない形で皆様にご検討いただくことになろうかと思しますので、よろしく願いいたします。ほかにございますでしょうか。

(清水委員) 75 番の「環境について関心をもつきっかけを提供する」というところの評価がCで、来年度は廃止となっています。その下は評価Aで、ゼロカーボンシティの関係ですが、この極端な感じがすごく疑問です。私は環境省でアンバサダーをやらせていただいて、地球環境を守る仕事をしているのですが、先日の広報の表紙がすごく素敵な上川の里という里山の写真でした。今、「30by30 (サーティ・バイ・サーティ)」とあって、世界が 2030 年までに国土の 30%以上を自然環境エリアとして保全しましょうという動きがあって、日本も環境省などがそこに向かって動き出しています。八王子はすごくこれにあっている土地です。山もあるけど、街もあるという、すごくいいところであるにもかかわらず、この環境について関心を持つきっかけを提供する予算がゼロになってしまうのはとても残念です。広報にもありましたが、NPOの里山を守る会があって、コカ・コーラさん、セブンイレブンさんなどの企業も入って応援してくれていますが、これをどうしてもゼロにしないといけないのが、とても残念に思っております。やり方が上手くなかったから上手くいかなかったのかもしれないですが、やるべき価値のあることだと思いますがいかがでしょうか。

(鶴田課長) 75 番の令和5年度目標設定の部分ですが、あったかホールの中に入っているエコ広場の事業としては廃止し、あったかホール全体を管理している指定管理者の方に整理統合するということです。方向性のところで「統合」という選択肢があれば、統合を選んだと思うのですが、それがなかったことで、エコ広場の事業としては廃止という書き方になってしまいました。事業そのものが消滅するわけではなく、同じ建物の中で指定管理者が実施する形になります。わかりづらい表現になってしまい、お詫び申し上げます。

(炭谷委員) 今の事業ですが、令和4年度の決算がゼロになっていますが、事業はやっているのですよね。

(鶴田課長) こちらについても、環境政策課の指定管理者委託先の事業になりますので、このゼロ決算につきましては、後日調査したのちご回答させていただきます。

(小林委員) 1つ前に戻って 74 番のはちおうじ出前講座についてお聞きします。私のもう一つ関わっている団体の方で、出前講座を利用して会員に提供しているのですが、出前講座の担当部署によって、市民への向き合い方が異なります。例えば、「土曜、日曜も対応します。」というところもあれば、「土日は対応できません。就業時間内の 5 時までしか承っていません。」と厳しく言って来られる時もある。この出前講座は対応に一定の統一性をもってやってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

(三浦会長) 出前講座の直接の担当窓口の方はいらっしゃいますでしょうか。お願いいたします。

(松井課長) 出前講座ですが、ご指摘のとおり、出前講座については、市役所の各所管で実施している部分と、企業や官公庁にお願いしているものがある。それぞれ対応の仕方に違いがあります。市役所の中でもそれぞれ所管の職員が業務と同時並行で出前講座の対応をしていますので、その所管の考え方にもよるところもあり、どうしても統一的にニーズに合致させるのは難しいですが、ご指摘の点については認識しております。

(小林委員) 会員に仕事している人がいるとなると、土日で開いて欲しいという要望があったりするので、市民の立場から見ると融通をきかせていただければという要望をだささせていただきたいと思います。よろしく願います。

(三浦会長) 今後の 1 つの課題ということでご検討いただければと思います。よろしいでしょうか。時間の都合もございますので、基本施策 2 につきましてはこれで終わりとさせていただきます。続きまして、基本施策 3 「学びを支える基盤づくり」につきまして、ご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

(清水委員) 113 番の「市民が納得できるサービスの提供」が廃止となっていますが、広報「はちおうじの教育」をもう出さなくなるのでしょうか。先ほど私が聞いたのと同じように、別のところに移るのでここでは無くなるという意味でしょうか。そうすると今度はどこで発信するのでしょうか。

(鶴田課長) こちらの所管は学校教育部です。こちらに書かれているとおりで、今までは広報はちおうじの本編の間に挟まる形で特集号があったのですが、これからは本編の特集記事として、一定のスペースを抑えて教育情報を発信していくというかたちになります。ただ教育分野に限らず、年に何度か入っていた特集号について、本編の特集記事に統合していくという流れが全庁的にございます。これ以上詳しい説明ができず、申し訳ございません。

(三浦会長) 学校教育部のほうに確認をしてみて、お答えをいただければと思います。よろしくお願いします。

(野口委員) 最後の129番ですが、図書館におけるICT活用について、先ほどもご紹介がありましたように小中学校と連携して電子書籍の活用ができる環境を整えたりということで、かなり積極的に進めておられるという状況がよくわかるのですが、評価の目標値と実績値が電子書籍のみで出されています。ここにも書いてありますが、八王子はかなり積極的にいろいろな取り組みを進められていて、例えばナクソスミュージックライブラリーという音楽の配信サービスが利用できたりとか、オンラインのリクエストを始めたりとか、その辺の部分为目标と実績にうまくいれていかないと、すごくもったいないと個人的に思います。ですので、令和4年度はこれでいいかもしれないですが、また来年度評価する際にはそのあたりを加味した形にしたらいいいのではないかと思いました。質問よりも意見となりましたが、以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。ご意見賜りましたので参考にさせていただきます。

(長谷川委員) 同じく129番ですが、評価としては目標値を出されていると思うので、これでいいと思うのですが、コロナが収束したこともあって、来館者が増えて、電子書籍が落ちたという可能性は考えられないですか。来館して実際の紙の資料を見るので、電子書籍じゃなくてよいということもあるのかなと思いました。

(一杉課長) 電子書籍の利用はコロナ前に比べると引き続きかなり多いのですが、コロナが落ち着いてきたこともあり、来館者が増えたために電子書籍が少し減っているというのはおっしゃっていただいたとおりの現象です。

(三浦会長) コロナによって図書館に来てくださる方が減ったというのは一番大きいと思いますが、現状としてはこれから回復していくという理解でしょうか。

(一杉課長) 令和4年度につきましては、令和3年度より来館者数や貸出数が伸びましたので、その分電子書籍の実績が前年に比べると下がったのかなとは思いますが。

(長谷川委員) 別々で評価したときに、一方がよくなる一方は必然的に落ちるという感じになってしまうので、合わせた評価も含めたりとか、ハイブリッド型ということで、紙の実物の資料とデジタル化された資料を合わせて運

用していくことが今後期待されるのではないかと思います。

(三浦会長) ありがとうございます。一つの課題として受け止めさせていただきます。基本施策3までいきましたので、全体の状況でも結構です。ご意見ございましたらばお願いいたします。

(小林委員) 全体ということで、資料①-3について、分野分けのところでは気になるのですが、私どもの生涯学習コーディネーターですが、先ほどの出張体験講座が趣味的なものとなっていますが、違和感があります。例えば、こども科学館のコニカミノルタサイエンスドームから講師をお呼びして、物理的な理科の分野に関しての学び、体験学習などもたくさん取り入れられて、学びにつながるものが多いです。なので、趣味的なものとして分類されると、一生懸命に出張体験講座でコーディネートしているのに、そういう見方をされているのかなと思ってしまいます。この分類分けが趣味的なものとなっているのがなぜでしょうか。これがもし、高校生とかだと多分教養的なものになってくるかと思うのですが、子どもだから趣味的なものとして分類分けされているのでしょうか。

(鶴田課長) 放課後子ども教室や学童における出張体験講座は現在の趣味的なものにカテゴライズされているのですが、例えば、4番を見ていただくと分類が「青少年育成・体験活動」という分野があって、計画期間中でも修正がきく範囲ですので、公表するときには修正した形で、市民の方にお見せすることができますので、そのご意見につきましては、こちらの方で、修正の材料としていただきます。

(山崎委員) 令和3年度はコロナでどうしてもできなかったものが令和4年度にかなり復活していて、やり方を変えたり、工夫したりして、事業が実施できていることが全体にわたってあるので、その点はすごく高く評価したいと思いました。コロナでデジタル化がすごく進みましたが、例えば115番の「学習支援センターだよりの発行」というのがあり、令和3年度は出さなかったけれど令和4年度は概ね計画通り発行することができたとあって、デジタルだけではこぼれ落ちてしまう人たちがいっぱいいますから、こういうところにちゃんと予算を出していただいたのはありがたいなと思いました。

(三浦会長) ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。お願いいたします。

(金山委員) 125番について、残念ながらB評価で、これはコロナウイルスの影響で利用者数が減ったということですが、若者の居場所としてフリースペースを設置したということで、数が減ったことについて、本当にコロナが

原因なのかと疑問に思うところもあります。こういう場所はB評価でも頑張
って継続していただきたいなと思います。それから、気軽に行けるような場
所があると引きこもりであるとか不登校傾向、高校生にもいますので、そ
ういう子どもたちの居場所づくりという観点で何かできるとありがたいな
と思いつつこの数字をみておりました。

(三浦会長) レベルの見方が小学生と高校生では違いますから、それぞれあ
る程度分けた形でやる必要があるのでしょうか。

(金山委員) 形態はいろいろなものがあります。ただ、そういう場所が各地
に点々とあるのがベストだと思います。そういう意味でもせっかくあるので
あれば、もう少し宣伝していただけると嬉しいです。

(三浦会長) 今あるものを活用していただくようにお願いします。ありが
とうございます。

(丹間委員) 先ほどの基本施策2の時に炭谷委員がおっしゃっていたので
すが、今日の中では議論しきれないかもしれませんが、今後に向けて、評価の
あり方についても検討していくことが必要だと全体を通して感じました。生
涯学習も多岐にわたる中で、八王子市では教育委員会だけでなく全庁をあ
げて実施しているということで、147もの事業が上がってきているわけ
です。何年か前ですと、確かもっと広げて多くの事業を対象としていたと思
います。それを一度に全体を俯瞰して評価する上では、どうしても一つの事
業についての代表的な目標や指標、それからその到達度を取り上げて点検し
ていくという見方になると思うのですが、例えば今の評価表でも令和4年度
の実施状況について、ぜひもっとしっかりと各所管に書き込んでいただ
きたいのです。120字以内となっていますが、ぜひ120字程度は書いて
いただいて、なぜその目標値にしたのか、なぜその指標を選んだのか、あ
るいはなぜその評価になるのか。先ほども話がありましたが、一つの指
標では評価しきれない面もありますから、そこは補足的に書いていただ
くとか、そのようなかたちで、このテキストをもう少し詳しく付け足して
いただくと良いと思います。この場に直接来られない所管の方もいら
っしゃるので、そういった工夫を評価表に関して今後していくことが
できたらいいのではないかと、全体を通して感じました。

(三浦会長) ありがとうございます。

(鶴田課長) 関連事業評価は毎年続けておりますが、先ほどもご指摘の
あった、何人集めたかではなくて、どれだけ満足が得られたのかとか、
人材の養成であれば、それが次に繋がったのかといった部分、つまり、
アウトプット

ではなく、できるだけアウトカムで評価していったほうがいいというご意見もいただいております。例えば、4ページの青少年講座は満足度 97.3%という素晴らしい数字を記録しています。6ページの図書館においては、ボランティア研修会が4点満点中3.79となっていて、生涯学習の分野に近い所管ほど、アウトカムを意識した評価は取り入れて改善をしているのですが、そうではない所管に関しては未だにアウトプットに留まってしまっているところがございます。ただ、これに関しては、引き続き事務局としても働きかけて、特に人材の養成であれば、それがどう繋がったのかとか、そこからどんなアウトカムが得られたかにつきましては、なるべく文脈で記述していただけるように働きかけていきたいと思っております。

(三浦会長) ありがとうございます。どんどん改良した形で進めていただければ、新たな意見が出てくると思いますので、よろしく願いいたします。他にご意見ございますでしょうか。お願いします。

(炭谷委員) 皆様の話でいろいろなところでできたと思うのですが、アフターコロナという局面に入って、元のように対面的なものに戻るのか、せっかくコロナ禍で我々が手にしたデジタルの技術をうまく使い続けられるのか、そういったアナログとデジタルの融合をしていく。この審議会も以前は対面にこだわっていたので、コロナ禍になるとできなかつたりもしたわけですけど、今はハイブリッドというかたちで、対面とオンラインの両方の参加者がいらっしゃって、それでも議論ができるという状況というのは、今の時代を象徴している。そういった意味での生涯学習も、両方を生かしていかなきゃいけないと思っています。それと、今鶴田課長の方からご指摘があった行政評価ですが、ちょうど東京都の自治調査会というところで、昨年度の職員の研修課題になっていて、報告書が4月に発行されていると思いますが、多摩地域の市町村の職員が集まって自主研究されて、そこで行政評価とはどうあるべきかということをお報告書としてまとめられているので、そういうことも一つの参考資料として使っていただくとありがたいです。

(三浦会長) ありがとうございます。時間の都合もございますので、まだご意見のある方につきましては、事務局よりメールで用紙を配らせて頂きますので、こちらの方へご記入をいただくかたちにさせていただきたいと思っております。

(鶴田課長) 冒頭、課長補佐のほうからも説明がありましたが、最終的には資料の①-1の5ページや7ページに相当する審議会としての各施策の評価、そして総合評価に繋がっていきます。今日のご発言も事務局が記録しておりますが、この後、皆様をお願いする書面でのご提出が、審議会の評価をまとめるために非常に大事なものになります。これをどんどん合体させて、

推敲しまして審議会として評価というかたちになります。この後の宿題になってしまいますけれども、それぞれの施策についてコメントをお寄せください。よろしくお願いいたします。

(三浦会長) ありがとうございます。それでは先に進めさせていただきます。報告事項でございますが、①八王子市立中学校部活動検討会議の開催等について、事務局よりお願いします。

(田島課長補佐) 八王子市立中学校部活動検討会議の開催についてご報告いたします。少子化に伴う生徒数の減少や教員の働き方改革などの課題に直面し、学校部活動は従来の方式のまま継続することが困難になってきました。令和4年にスポーツ庁と文化庁にそれぞれ設置された検討会議において部活動の地域移行に関する提言がなされ、これを受け、同年12月に『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン』を策定し、令和5年から7年の3年間を改革推進期間と位置づけ、各地域の実態に合わせて、まずは休日の部活動の地域連携・地域移行を推進するという方針が国から示されました。このことを踏まえ八王子市でも、資料①-1「八王子市立中学校部活動検討会議開催要綱」を策定し、市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において部活動の段階的な地域連携及び地域移行についての検討を開始しました。続きまして資料①-2をご覧ください。先月5月16日に開催した第1回の部活動検討会議の資料でございます。ここで八王子市の基本的な考え方についてご説明いたします。八王子市では学校部活動の仕組みを一斉に変えるのではなく、隣接する学校同士で部活動を行う合同部活動方式などの広域部活動の実施や、地域人材の参画による部活動指導員や指導補助員の配置など、学校教育における子どもの活動機会を継続するとともに、スポーツ・文化芸術・レクリエーション・ボランティアなど地域の多様な活動機会の選択肢の中から子どもたちが自由に放課後や休日の過ごし方を選ぶことができるといった、学校部活動と地域活動の垣根のない環境の実現を目指していきます。今後も国や都の動向に注視しながら、検討会議で議論をしてまいります。報告は以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。こちらにつきまして、まずご質問から賜りたいと思います。ご質問のある方挙手をお願いいたします。

(金山委員) 中学校の部活動をどうするかというのは各学校だけではなくて、学校運営協議会でも、大きな問題になっているところですよ。資料によると、今後の自治体を実施する取り組みの骨子として共有するということが書いてありますし、何より学校運営協議会の代表が検討会のメンバーに入っていないのはとても残念です。自治体単位として、子どもたちの部活の移行を考えるのは学校運営協議会だと思うので、ぜひ学校運営協議会を入れていた

だきたいなというお願いです。

(三浦会長) ご意見として賜ります。ほかにご意見ございますでしょうか。
(炭谷委員) 開催期間は、この4月から3月までとなっていますが、開催スケジュールとして今後どのくらい開催される予定でしょうか。

(鶴田課長) 年内、第1回を含めまして、最大で5回程度を見込んでおります。ただ、5回の議論で結論が出るわけでもございませんので、国や都の動向の変化、それから本市の中での進捗状況などを踏まえて、必要であれば翌年度以降も議論は継続していくことになります。

(炭谷委員) 取り組みやすい地域と取り組みにくい地域もあろうかと思うので、取り組めるところから先という方式にはなるとは思いますが、やはり学校教育のスポーツ活動ですから、なかなか取り組みし得ない地域の方から救ってあげるような施策を検討していただければと思います。

(三浦会長) 他にご意見ある方、お願いいたします。

(清水委員) 部活動というのは教育課程に入っていませんが、基本的には特別活動の中に入ります。部活動とか特別活動を考えるときに、子どもの主体性ということが最優先されます。ですので、時間的に子どもが会議に出るとするのは難しいかもしれないですが、子どもの声を聞くということがどこかに保障されている必要があるかと思えます。小さい学校や、大きい学校、いろんなところがありますけれども、子どもたちの声も聞いていただきたいなと思えます。

(三浦会長) 子どもたちの声をどう拾い上げていくかというシステム作りもご検討いただければと思います。

(炭谷委員) 具体的に言えば、先ほどの補足をすれば、逆に不便な地域をも一つモデル地域として、地域で全面的に支援していく体制をつくっていくといいかなと思いました。

(三浦会長) ありがとうございます。こちらにつきましても用紙を出していただくということでよろしいですか。

(鶴田課長) 報告事項も含めて、意見シートの対象になりますので、ご感想・ご意見をいただければと思います。ありがとうございます。

(三浦会長) それでは先に進めさせていただきます。続きまして、(3) 報

告事項②でございますが、令和5年度都市社連協 第1回役員会・第1回拡大役員会の報告があります。お願いいたします。

(香月主任) 5月16日に開催された東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回役員会・拡大役員会についてご報告します。それでは報告資料②をご覧ください。会議で配布された資料でございます。東京都市町村社会教育委員連絡協議会では、各市輪番で役員を担っており、今年度は調布市が会長市となります。一枚めくっていただくと今年度の役員と各ブロック幹事市が記載されておりますのでご確認ください。今年度八王子市は第3ブロックの幹事市となります。続いて、「協議1」令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会日程表(案)をご覧ください。今年度開催される会議および研修会等についての日程表でございます。一番右の列「総会・交流大会等」に記載のある行事が、委員の皆様にご参加いただくものとなります。今後予定されているものとしては、12月の交流大会、来年4月の定期総会となります。加えて、地域で分けられたブロックごとに行う、ブロック研修会も実施される予定です。一枚めくっていただいて、「協議2」がブロック研修会実施計画書です。八王子市は第3ブロック幹事市として、研修会を行います。同日に開催されます日本遺産フェスティバルに合わせまして、11月4日(土)午前に八王子市クリエイティブホールにて実施を予定しております。当日は委員の皆様にも運営に携わっていただきたいと思っておりますので、ご予定の程よろしくお願いいたします。詳細が決定次第、あらためて通知を送付いたします。次ページ「協議3」以降は一般社団法人全国社会教育委員連合の表彰者推薦及び各会議内容の報告となっております。こちらについては説明を割愛させていただきます。各自ご確認ください。報告は以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。5つのブロックに分かれている中で、今年は八王子市が第3ブロックの幹事市ということで、社会教育委員(生涯学習審議会委員)も含めて、委員の皆様のご協力をいただいて、各市と連絡を取ったりすることに関しては事務局の方をお願いしますが、特に当日につきましては、受付等の関係のことを社会教育委員、八王子で言いますと生涯学習審議会委員が担当しなければいけないということになります。もちろん事務局にもお手伝いをいただくわけですが、基本的にはこちら主体で進行していきます。もっと言うと、司会もこちらでという形になりますので、そういった意味では、原案ができましたら最後お示ししてご意見賜りながら、11月でもうあまり期間もないですが、他の市からお見えになる社会教育委員や生涯学習審議会委員の方にとって「来てよかった」と思ってもらえるような内容に仕上げただけであればと思います。ご協力よろしくお願いいたします。それでは先に進めさせていただきます。報告事項④ 第4次読書のまち八王子推進計画における事業の実施状況及び今後の実施予定について事務局よりお願いいたします。

(村石主査) それでは、「第4次読書のまち八王子推進計画における事業の実施状況及び今後の実施予定について」、資料に沿って、ご説明します。まず、A4版の資料③-1をご覧ください。「1趣旨」ですが、第4次読書のまち八王子推進計画に基づく、事業の実施状況や今後の予定を報告し、委員の皆様からご意見等を伺いたいと考えております。事業の実施状況については、主に令和4年度の実施状況と5年度の実施状況・予定について報告いたします。続いて、「2内容」に参ります。(1) 事業実施状況の概要ですが、簡単な表にまとめてございます。総事業数が51事業、延べ実施・連携所管数は64所管にのぼり、令和3年度と比較して5事業5所管の増となりました。昨年度は、Withコロナの機運が高まり8割程度の事業が予定通り、または拡大変更しての実施となりました。子どもや高齢者に対して、室内で読み聞かせなどを行う事業については引き続き慎重な姿勢が続いておりますが、感染対策を講じながら、「新しい生活様式」における市民の生活や読書環境の変化を捉えた事業実施を進めているところです。次に、(2) 各事業の実施状況についてはA3版の資料③-2をご覧ください。新しい取組や変化のあった取組を中心に説明してまいります。まず、非来館型サービスの充実として、3ページ中ほどになりますが、「小中学校と連携した電子図書館の推進」を行いました。市内全小中学校及び義務教育学校のGIGAスクール端末での電子書籍の貸出開始に向け、準備を進めてまいりました。令和5年度4月からは一斉に貸出が始まり、学校での朝読書や休み時間の読書活動などに活用されているところです。また同じページの下から2番目にあります「幸齢者サロン」については、図書館で本を介して認知症について気軽に話し合える「高齢者安心相談センター」との連携事業であり、令和4年度「縮小して実施」とはなっておりますが、コロナ禍によって長らく休止していたものが3年ぶりにテスト開催に至ったものです。令和5年度はコロナ前の水準を目指して開催していく予定です。以上、新しい生活様式を踏まえ、市民の図書館利用が復活する中で、令和5年度も図書館が地域の情報拠点として、本と人、人と人をつなぐ学びの場となるよう、引き続き本計画を進行してまいります。説明は以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。これにつきまして皆様からご意見ご質問がございましたらお願いいたします。

(長谷川委員) 非常に多岐にわたる取り組みを実施されていますが、報告資料③の3ページ目にある「プッシュ型サービスの導入の検討」とありまして、利用者に対して積極的にお勧めや通知を行うプッシュ型サービスの導入を検討するということですが、利用者全体に対して一様にやるのか、それとも個々人に対してできるようなシステムを検討しているのかというのが気になります。いわゆるアマゾンとかだとおすすめが出来ますが、それを想定する

のであれば、利用者個人の貸出履歴がかかわってくるので、そういった情報の取り扱いを考えなければいけないと思うのですが。

(村石主査) 図書館システムの機器の更新を令和6年度に控えておりまして、その中で、事業者と相談しながら、個人情報等にあまり触れないようなかたちで検索履歴などからおすすめができたらいいかなと検討しているところです。

(一杉課長) 基本的に本人がそのサービスを使うかどうかを選べるような形にする予定です。

(長谷川委員) 個人に対してやる場合は許可を取るといえることですか。

(一杉課長) はい。

(野口委員) 資料③の最終ページ、施策の方向性 13「多文化サービスの展開」に関連してですが、資料の充実は大変重要な方向性だと思うのですが、近年、外国にルーツのある市民の方への情報提供の手法として、やさしい日本語というのが注目されています。ですので、もし可能であればやさしい日本語の資料の充実という視点も入れていただけるといいのではないかと思います。これは要望になります。以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。ご意見として承っておきますので、ご検討いただくようお願いいたします。他にご意見ございますでしょうか。お願いいたします。

(金山委員) 3ページ目のオンラインリクエストサービスの実施ですが、こういうふうにはっきり子どもたちがアクセスしやすくなっていて、ミュージックライブラリーもあるので、例えばこれを学校ホームページのどこかとリンクするとか、なんか方法はないのでしょうか。よく図書館に行く子どもたちだったら、知るチャンスがあるかもしれないですが、図書館に出て行かない子たちも、知ったらアクセスして新しいものを知ることができる。そこを指導課とかとご相談いただいて、流しっぱなしにならないよう、なにかいい方法がないのかなと思います。

(一杉課長) 学校図書館サポートセンターとは連携をとっておりまして、GIGA スクール端末の中に学校図書館のページがございまして、そこに公共図書館の情報もホームページとリンクを張っていただいております。

(三浦会長) この報告事項につきましてもご意見ございましたら、後日記入

いただいでご提出いただければと思いますので、よろしく申し上げます。続きまして、報告事項④ 八王子南口集いの拠点整備・運営事業の契約締結に伴う施設の概要について申し上げます。

(村石主査) それでは「八王子駅南口集いの拠点整備・運営事業の契約締結に伴う施設の概要について」報告します。配布資料をご覧ください。こちらの資料は事業者の提案をベースとした資料になりますので、今後の協議により一部変更になる可能性があります。本事業の進捗について、令和5年3月6日に、市と特定目的会社との間でPFI事業契約を締結しました。特定目的会社の名称は、「八王子ミライテラスパートナーズ(株)」といい、代表企業に大和リース株式会社、構成企業に図書館や博物館等を運営・整備する会社があり、さらに協力企業によって構成しています。この事業の契約期間は、令和5年3月6日から令和23年9月30日までです。契約金額は、開館準備費、建設費及び運営費をすべて含め、180億5,170万416円、開館は令和8年10月を予定しています。プロジェクト名は、「みんなの夢を紡ぎ、未来を織りなす、八王子ミライテラス・プロジェクト」とし、コンセプトは、繭から糸を紡ぐように、市民の夢を集め、学びや交流を通してともに織りなし、八王子の未来を美しくいど、ここから生まれた新たな文化を、100年先の未来へつなげていくものです。次に施設の説明に入ります。配布資料をお開き下さい。施設全体の敷地面積は約52,000㎡、これは、東京ドーム1.1個分の広さになります。図の左側に書かれている「未来の山」の文字のあたりが「とちのき通り」です。ここから西に向かって、プロムナードが公園を横断し、花やマルシェによる賑わいの演出をするとともに、芝生公園やメイン棟と一体的なイベント利用を可能にします。プロムナードの北側には2階建て円形デザインのメイン棟を設置し、屋上の展望広場からは高尾山などの山々が眺められます。南側には昨年、にっぽん文楽プロジェクトから譲り受けた檜づくりの舞台を活動展示室棟に収めています。また、天候に左右されることなく屋外活動ができる大屋根広場及びレストラン棟を設置します。メイン棟1階には歴史・郷土ミュージアムと、交流スペースとして、イベント・運動教室等が行えるスタジオなどを配置します。歴史・郷土ミュージアムは常設展示室を2つ設け、飽きのこない展示を実現するため、可変性を重視した仕組みとします。特別展示室では、国宝や重要文化財を八王子の歴史資料と比較展示するなど、貴重な実物資料に出会える場所を提供します。また展示室のほかに、郷土ラボや体験展示室など、活気あるオープンスペースやモノづくりの楽しさが味わえるメーカースペースを設けます。続いて、メイン棟2階には憩いライブラリを配置します。公園内の立地を最大限に活かした明るく開放的なライブラリとし、内部は、誰もが気軽に訪れ、自由に回遊できるように間仕切りをなくしたオープンな空間とします。書架の間を巡る楽しさを感じさせる閲覧コーナーを設け、高さ150センチ程度の5段書架を基本とし、上段に大人向けの本、下段に子ども向けの本を配架することで、大

人も子どもも思わぬ本との出会いを通して、読書意欲が高まります。閲覧コーナーから距離を取った静かな環境には自習スペースを配置します。本を公園に持ち出して楽しむこともでき、絵本を満載した車を公園内に配置しての「公園内どこでも図書館」なども提案されています。施設の概要は以上です。令和8年10月の開館に向け、令和5年度には既存施設の解体及び施設の基本設計・実施設計が行われ、令和6～7年度には建設と公園整備が行われます。以上で報告を終わります。

(三浦会長) ありがとうございます。大変大きな計画ということですが、いろいろな分野にまたがっており、簡単にはわからない部分もあるかと思えます。「こういうものを入れたらどうか」などの意見があれば、用紙に記入していただければと思います。

(小林委員) 施設の中には、例えばミーティングをしたり、会議をしたりというようなスペースはあるのでしょうか。また、この表紙の下の方にある「ミライテラス・コーディネーター」という文言がありますが、これは市の職員が務めるのか、あるいは、新たに養成講座みたいなものを作って募集されるのか、どうかたちになるのでしょうか。この2点、お願いします。

(堀内課長) まず1つ目のご質問ですが、ミーティングなどできるスペースは、かなり多く設える予定でございます。大きな声でお話をして問題ないとか、逆に静かに話をしたいスペースなど、多目的に使えるような施設を予定しています。

(小林委員) これは部屋タイプですか。それともオープンスペースですか。

(堀内課長) どちらもご用意する予定であります。

(小林委員) わかりました。ありがとうございます。

(堀内課長) 2つ目の質問ですが、中のスタッフとボランティア、地域の方々、いろいろな方を巻き込んでやるというかたちです。

(小林委員) わかりました。それでは、募集をされるということなののでしょうか。

(堀内課長) そのとおりです。

(小林委員) わかりました。

(三浦会長)「ミライテラス」とはおそらく造語なのでしょうが、一般市民の方はこれを聞いた瞬間に意味が分かるかという問題があるだろうと思います。造語を使うことが悪いことではないので、それを使った場合に、その言葉の説明を付け加えると市民の方が理解しやすいのではないかなと思います。

(山崎委員)説明の中で閲覧という話がありましたが、貸出はしないということでしょうか。

(堀内課長)貸出はいたしません。ただ、貸し出しを求める利用者さんもいらっしゃいますので、八王子市内の図書館の本を取り寄せて貸出をすることは可能です。

(山崎委員)はい、分かりました。では、公園内に持って行けるというのは、持っていったら自分でまた元に戻すということですか。

(堀内課長)はい、そのとおりでございます。

(山崎委員)はい、分かりました。

(三浦会長)ありがとうございます。ほかのご意見もよろしく願います。

(清水委員)みんなの公園の「公園をつくり、育てることに参加し、愛着心を育むサードプレイス」というのは、公園を育てていくということですが、誰が育てるのでしょうか。

(堀内課長)中に当然育てるスタッフがおりますけれども、例えば植樹とか花植えの際にボランティアを募集して、地域の方などと一緒に公園を作っていくという考え方です。

(清水委員)その中に子どもたちが自分で作るような場所を作るとかできませんか。綺麗すぎるんです。花が植わっていて、遊歩道があってというのは綺麗すぎて、子どもたちはもっと秘密基地でもあるような穴を掘れるぐらいの方がいいような気がするのですが、泥んこ広場のような場所が隅にあったらいいなと思います。

(堀内課長)今のところ具体的にそのような計画はございませんが、ご意見があったということで承ります。

(小林委員) 先ほど聞き忘れたのですが、ミーティングができる部屋があるということで、これは有料になるのでしょうか。こういった形で利用できるのでしょうか。

(堀内課長) 有料のスペースもございますし、無料のスペースもございます。

(小林委員) 有料スペースはおいくらぐらいですか。

(堀内課長) 申し訳ございません。現時点では設定できておりません。受益者負担という部分がございますので、八王子市の他の施設等を参考にして企業が設定していく予定です。

(三浦会長) ソフトの面の具体的な内容までは、まだ決まっていないようですので、今後順次報告していただけるようにしますので、よろしくお願いいたします。

(小林委員) よろしくお願いたします。

(清水委員) 令和8年の10月に開館となっておりますが、建物を建てている途中でも周りの公園はオープンするなど、順次どんどん使っていくのでしょうか。それとも令和8年までは全くオープンしないのでしょうか。

(堀内課長) プレオープン的なものはあると思いますが、基本的には全てが完成してから一斉にオープンするかたちになる予定です。

(大塚委員) 近隣の保育園等を集めてヒアリングをしてくださったという情報はあり、そこでも出たかなとは思のですが、どうしても市内の保育園が遠足に行く時、市内の施設ではなく、どうしても市外の公園などに遠足に行くことが結構多いです。駐車場は230台ということですが、そういった遠足とかの受け入れの体制について聞きたいのですがいかがでしょうか。

(堀内課長) 受け入れができるように大型バスの駐車場なども用意しております。ぜひご利用いただければと考えています。

(大塚委員) ありがとうございます。

(三浦会長) 今後、ソフトの部分では、いろいろな形で皆様からご意見をいただきながら、生涯学習審議会委員だけでなく、色々な方々から様々なご意見をいただきながら組み上げていくということになると思いますので、機会がありましたら、また皆様からぜひご意見を賜りたいと思いますので、よ

ろしくお願いいたします。

(阿部委員) みんなの公園について、綺麗すぎるというのは私も同感です。子どもたちが自由に遊べる場所に遊具が備え付けてあるかもしれませんが、遊具ではなく、プレーパークみたいところが八王子に今ほとんどありません。せっかく八王子は自然がたくさんあるところなのに、子どもたちが安心して自然の中で遊べるところがないので、ぜひ一部で良いので、ここに入れていただけたらと思っています。

(三浦会長) はい、ありがとうございます。特に街中だとどうしてもそういう場所が少ないでしょうから、そこをどう捉えるかということは一つの課題だと思いますので、ご検討いただければと思います。ありがとうございます。

(上田委員) 防災機能を活かすと書いてあるのですが、私は館清掃工場の時に、計画の段階から検討委員会に参加していました。その時もやはり避難場所の機能を活かすという話が出て、開放する前に事前の見学会があったので、私もそれに参加しました。その時の話というのが、見学の中身になかったなとか、それから本当に市民に開放して避難場所を提供できるのかというような疑問を抱いて、施設の管理だけ意識して非常に思いが強かったのを見学の帰りに感じたのですが、話が図書の問題の話ばかりになっていますが、本当に災害が起きた時に、最大で3日間程度は1000人以上の滞在について、本当にそうして開放してくれるのかなという思いがします。建物を管理する側にとっては一般市民が入っちゃいけないとか、建物を汚しちゃいけないとか、施設の機能を害するということで、そちらのほうばかりに気が回って、本当に開放してくれるのかなという思いがあるのですが、その辺はいかがでしょうか。

(堀内課長) はい、お答えいたします。元々この施設は防災公園が大元になっております。ですので、こちらにも書いてございますが、広域避難場所として広場に7,000人程度が一時避難が可能です。また、3日間程度、1,000人程度の滞在が可能です。元々が防災機能を兼ね備えた公園であるということをご理解いただければと思います。

(三浦会長) 今後進んでいく中で、皆様にも見えてくるだろうと思います。またご意見を聞かせていただく機会がありましたらご意見いただければと思います。先に進めさせていただきます。報告事項⑤ 令和5年度(2023年度)「本のPOPコンテスト」の実施について、事務局よりお願いいたします。

(佐藤主査) それでは、議題資料⑤第3回 本のPOPコンテストの実施につきまして説明させていただきます。八王子市図書館では、令和3年度より事

業をスタートした「本のPOPコンテスト」を今年度も実施いたします。本コンテストを実施するにあたり、本日は、これまでとの変更点につきまして、主にお伝えをさせていただきます。まず、資料の5「応募資格・区分」をご覧ください。変更部分は、小学校の部で、これまでは小学校1・2・3年生の部、小学校4・5・6年生の部、と2つの部門でしたが、今年度からは3部門に分けて実施します。これまで2回実施するなかで、どうしても小学1・2年生が受賞しにくい様子がありましたため、今年度からは部門を細分化し、受賞の枠を広げます。6月中旬より、学校へポスターと募集要項をお送りしております。また、これまで特別支援学校等にもご案内を行っていましたが、応募が振るわなかったため、今回は郵送ではなく直接学校にお伺いをし、ご案内を行いました。都立八王子盲学校からは募集要項の点字版のご要望を頂き、準備を進めているところです。そして最後、資料裏面の8「その他」をご覧ください。本事業実施当初から、学校の教員や学校司書、そして参加者の方から「POPの作り方講座」開催のご要望をいただいております。また市内書店から協力のお声もあり、検討を進めてはありましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、実施は控えておりました。状況が落ち着いたため、今年度改めて市内各書店と調整をするなかで、「読書のまち八王子推進連絡会議」にも委員として参加をいただいていたくまざわ書店様と調整がつき、くまざわ書店の書店員の方を講師に迎え、8月に「POPの作り方講座」を開催予定です。詳細は現在調整中で、今後広報はちおうじや図書館HP、図書館の館内掲示等で周知を行って参ります。説明は以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。これに関しまして、ご意見等ございますでしょうか。お願いいたします。

(石川委員) 3概要(2)の「読書のまち八王子推進連絡会議メンバーの審査」ですが、どなたが審査されますか。

(佐藤主査) 推進連絡会議自体はこちらの生涯学習審議会に吸収されたのですが、以前そちらを経験されていた市民を始め、学校の先生方に審査をお願いする予定です。

(三浦会長) 続きまして、報告事項⑥ 川口図書館の大規模修繕についてのご説明をお願いいたします。

(江藤主査) 川口図書館の大規模修繕について、ご説明いたします。川口図書館施設の長寿命化及びゼロカーボン対策のため、令和5年6月から令和7年3月にかけて工事を実施することについて、報告するものです。工事内容ですが、令和5年度は、開館しながらの工事となり、外壁及び屋上防水の工事、また、令和6年度は、休館での工事となり、内装、空気調和設備、給排

水衛生設備、電気設備昇降機設備工事をそれぞれ実施いたします。今後の予定ですが、ホームページ、館内ポスターでの周知やポスティング対応。広報はちおうじでは、令和6年度の休館のお知らせを掲載いたします。説明は以上です。

(三浦会長) ありがとうございます。こちらは築何年ですか。

(鈴木課長) 平成9年に建てられて、築26年になります。

(三浦会長) 何かご質問ございますでしょうか。それでは先に進めさせていただきます。報告事項⑦ 放課後子ども教室をフィールドにした研究成果集(小冊子)についてお願いいたします。

(倉田課長) ご報告いたします。この度、こちらの生涯学習審議会のメンバーである丹間先生の方で、放課後子ども教室をフィールドにした調査研究を行っていただきましたので、本日お時間をいただきまして報告させていただきます。お手元に「あなたも OHANA になれる場所 放課後につながるのたねをまこう」と書かれた小冊子がございますでしょうか。この小冊子をご用意いただきまして、お聞きください。今回成果物の提示が先生の方からありましたので、私どもとしましては市長、教育長をはじめ、教育委員会の管理職や関連所管で共有をさせていただいたところです。調査研究のフィールドにさせていただいたことで、放課後子ども教室の現場で事業を運営している実施主体の皆様から大学の皆さんに注目していただいて、大変励みになったという声ですとか、実際に学生さんたちが現場に来てくださいましたので、子どもたちが喜びまして、学生たちとの交流を楽しんだというようなことがありました。八王子市としましては、このような調査の対象としていただいたこと、大変に光栄に思っております。調査研究の内容につきましては、丹間先生の方からご説明をお願いいたします。

(丹間委員) 今回お配りさせていただいた成果集ですけれども、大学の授業で、帝京大学と中央大学の社会教育・生涯学習を学んでいる学生たちと一緒に編集させていただいたものになります。2021年度の後期の授業でしたので、ちょうど新型コロナウイルスの感染者数でいうと第5波と第6波の間、本当に大変だった時期に、八王子市の放課後子ども教室運営団体の皆様と、八王子市教育委員会の放課後児童支援課の皆様にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。やはりコロナ禍で心配されたのが、学校教育での正規の教育課程を取り戻していくということがまずはありませんでしたが、それとともに、子どもの居場所がどうなってしまうのかということが、当初から懸念されていました。そういう中で、放課後の児童の状況がどうなっているのかということで、まずはアンケートを取らせていただいて、その結果

を学生と一緒に読み込みました。大学のほうにも運営団体の方をはじめ、市の担当課の方々にお話に来ていただきました。ようやく対面授業が再開したところで、間隔を開けたり換気をしたりしながらお話をさせていただきました。そしてさらに可能な放課後子ども教室には、実際に学生が訪問させていただいて、見学したり、参加したり、お話をさせていただきました。その中で分かったことは、この成果集の前半が学生のエッセイで、後半が調査データの集計結果になっているのですが、コロナ禍で子ども教室と学校や教育委員会が連携を深めたという事例もあったということです。困った時こそお互いを思い合って助け合うというようなことが、コロナ禍で実は起きていたのだということが分かりました。情報共有が以前にも増して行われていた等、こういう時だからこそお互いの目的を確認し合えたということもありました。そして何より、地域の方々が感染リスクもある中で、なんとかして、子どもたちの居場所を作っていたということに、私も非常に励まされましたし、学生たちも励まされました。コロナだからとくよくよしている場合じゃない。これだけ地域の人たちが子どもたちのために頑張っているのだということに励まされました。大変な時こそつながりの真価が問われると思いました。困ったときこそ手を取り合えるような地域と学校の連携、また今回の取り組みのように、八王子市と大学も、大変な時こそ一緒に取り組んでいくような連携ができればいいなと思っています。本当にご協力いただきましてありがとうございました。また、次に繋げていきたいと思っております。

(三浦会長) ありがとうございます。こちらにつきまして、皆様から何かございますでしょうか。

(金山委員) 大学生のみなさんのエッセイがとてもどれも素敵です。要点を抑え、ちゃんと見るべきところを見てください、学校に関わっている者としてはとても嬉しかったです。先生の最初の文章の一番最後にある「コロナ禍での学生たち」は私もすごく気になっていて、その宿題に近いのかなと、この子たちをなんとかできないのかなと思いながら関わりましたけれども、その厳しい環境の中を過ごした大学生だからこそ、こういうことが書けたのかなと感じるところです。とても素敵な読み物としても楽しく読ませていただいております。ありがとうございます。

(丹間委員) 卒業して頑張っている学生たちに今の言葉も伝えたいと思います。ありがとうございます。

(三浦会長) 本日予定をしておりました案件につきましては以上でございますが、何か皆様からございますでしょうか。お願いします。

(炭谷委員) 他市のことではありますが、7月1日に多摩センター駅前に中

央図書館がオープンいたします。私も内覧会で見てきましたが、なかなか良く仕上がっている、今時の図書館の作りになっていますので、皆様に見ていただけるとよろしいかと思えます。

（三浦会長）機会がありましたら、ぜひ視察に行っていたいただければと思います。他に何かございますでしょうか。無ければ事務局にお返しいたします。

（事務局）次回の審議会の日程については8月24日（木）19時から、場所はクリエイイトホール第二学習室で開催予定です。よろしくお願いいたします。

（三浦会長）夏休み中に申し訳ないですが、皆様ご参加いただければと思います。それでは以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。